

# 令和4年度 ウェスタン大学アメリカ薬学研修 個人報告書

17A140 柳澤 真希

私は、令和5年2月21日から3月5日の13日間アメリカ薬学研修へと参加した。研修中は主に提携校である Western University of Health Sciences (ウェスタン大学薬学部) を訪問し、その他にもアメリカの医療施設を見学した。13日間のアメリカ研修を通して特に印象的だった事についてまとめる。

## ●医療の質の比較

表1, 医療の質の比較

	USA	Sweden	UK	China	Japan
人口 (2019年)	376,400,000	9,747,000	66,220,000	1,395,000,000	127,294,740
医療機関数: 2019年 (米国は2014年)	820,231	41,846	181,672	12,424	200,832
人口1,000人当たり医療機関数: 2019年 (米国は2014年)	2.4	4.3	2.8	2.3	2.4
人口10万人当たり医療施設数	1.7	-	2.9	-	4.6
人口10万人当たり医師数 (人)	270	855	385	200	180
人口10万人当たり診療所 (開業医) 数	12	65	11	27	80
平均寿命: 2018年 (米国は2014年)	79.3	82.2	81.5	81.1	81.8

表1における人口10万人当たり医療施設数や人口10万人あたり診療所(開業医)数に着目する。アメリカと日本を比較した際、圧倒的に日本の方が高い値を示している。また、市街地を歩いていても医療施設が少ないことを実感した。これは医療制度の違いが関連していると考えた。

令和5年3月1日、私たちは学校から徒歩でドラッグストアの見学に行った。この見学を通し実際に見聞きしたことで、日本との違いや薬・文化に関する知識について学ぶことができた。日本では現在セルフメディケーションといった言葉が少しずつ世に浸透してきている。しかし、日本は国民皆保険制度を取り入れていることから医療施設の需要は高い。このような違いが表1における値として結果に表れていると考えた。

## ●OTC 医薬品について

・昼用夜用がパックになった医薬品

私はアメリカ研修におけるドラッグストア見学でこのようなパック医薬品の存在について学んだ。日本にもこのようなパック医薬品は存在するものの種類として多く見かけることはない。一方で、アメリカの OTC 医薬品はこのような昼用夜用がパックになった医薬品をいくつか目にした。この医薬品について成分に関する相違点があることを教えて頂き新たな学びとなった。



図1, 昼用夜用がパックになった医薬品 (アメリカ、日本の比較)

・剤型の特徴

成人した大人が服用する医薬品として日本で主流な剤型としては、錠剤やカプセル錠があげられる。これは、容量が均一で持ち運びが簡単といったメリットがある。一方で、アメリカにおける OTC 医薬品の棚には錠剤やカプセル錠とともに水剤が多く取り扱われていた。現地で働かれる薬剤師との会話を通し、医薬品の吸収速度や調整のしやすさからアメリカでは人気の剤型であることを学んだ。しかし薬剤師のアセスメントとしては、保存や持ち運びが煩雑であることから剤型にはそれぞれメリット・デメリットが存在するため患者に適した剤型の選択が大切であることを学んだ。

・既往症に考慮した医薬品



図 2, 既往症に考慮した医薬品  
(高血圧患者、糖尿病患者に考慮)

現在、既往症として高血圧や糖尿病をもつ患者さんは増加傾向にある。セルフメディケーションを推奨する上で問題となるのが、併用薬との相互作用や含有成分による既往症への悪影響である。このような問題を防ぐために工夫され開発された医薬品を示す。高血圧の既往を持つ患者さんであれば血管収縮作用を持つフェニレリンが代替された医薬品。糖尿病の既往を持つ患者さんであればシュガーフリーとなっている医薬品。これらのように OTC 医薬品であっても既往症に考慮した医薬品の存在が、患者が適切で安全にセルフメディケーションを可能にすることへと繋がる。

また、OTC 医薬品の中にアルコールが含有している医薬品も存在する。一目でわかるような記載をし、疾患との関連だけでなく宗教的な問題等との関連も考慮したりと患者が適した医薬品選択をできるような工夫が必要であることを学んだ。

●アメリカと日本の医薬品定義の比較

睡眠覚醒サイクルの調整に使用されるメラトニンは日本では医師の処方が必要ならば購入することができない。一方でアメリカではサプリメントとして販売されている。また子供用のタブレットも販売されているため、アメリカと日本では医薬品定義に大きな違いが存在することを

実感した。サプリメントとして、また子どもにも使用が可能であるからといい安全というわけではないため、長期的な使用や高用量での摂取には注意が必要となることを学んだ。



図 3, メラトニンの小児用サプリメント

●感想

私はアメリカ薬学研修を通して、今回参加しなければ学ぶことはなかったと感じる知識や経験、そしてウェスタン大学の先生や生徒の方々との出会いをすることが出来た。日本の薬剤師と比較した際、メリットもあればデメリットも出てくる。こういった比較から今後自分ほどのような薬剤師になりたいのかを考え、将来に活かす学びとなった。

13 日間のウェスタン大学アメリカ薬学研修に参加させて頂きありがとうございました。

